奈良文化財研究所創立60周年記念講演会を開催

奈良文化財研究所は、専門を異にする研究者が実物に即した文化財の総合調査をおこない、その研究成果を文化財保護行政に役立てるために、文化庁の前身である文化財保護委員会の付属機関として、1952年４月１日、文化財の宝庫である奈良の地に設立されました。

本年で創立60周年の節目を迎えることを記念し、10月６日に、東京・一橋大学一橋講堂で「遺跡をさぐり、しらべ、いかす―奈文研60年の軌跡と展望―」と題して、10月20日に、なら100年会館で「日中韓　古代都城文化の潮流　奈文研60年　都城の発掘と国際共同研究」と題して講演会を開催しました。

東京会場では、平城宮跡等のこれまでの発掘調査の成果、考古学や保存科学への先端の科学技術の導入、遺跡の整備やマネジメント、更には歴史学の基盤をなすものとして着実に取り組んできた奈良の寺社の古文書調査、また、文化遺産の保護に対する国際的協力について講演をおこないました。

奈良会場では、奈文研が中国社会科学院考古研究所、韓国国立文化財研究所との間で継続しておこなっている、日・中・韓の古代都城に関する組織的な国際共同研究の成果を、それぞれの第一線で活躍する研究者が、日本、中国、韓国であきらかにされつつある古代都城文化の豊かな実情を報告し、その後、国際共同研究事業の成果等についてパネルディスカッションをおこないました。

また、講演会にあわせ、「写真で見る奈文研60年史」として、これまでの奈文研の調査・研究の取組、中国、韓国との国際共同研究の成果等を写真パネルで紹介しました。　（連携推進課　田中 康成）

講演会風景（東京会場）

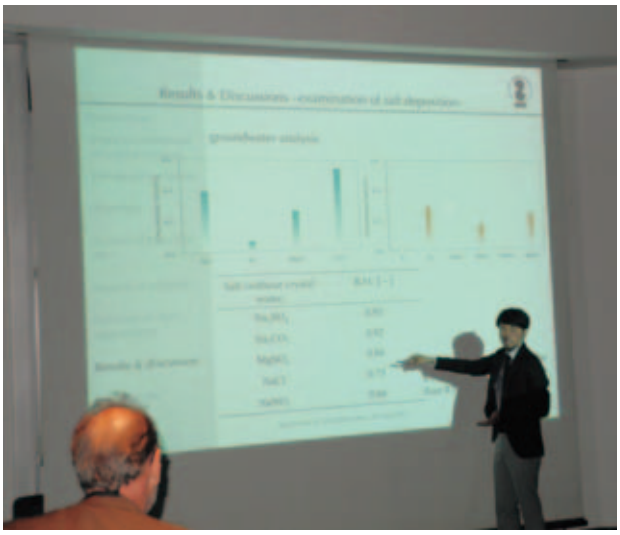
コロンビア大学との研究交流

奈良文化財研究所は、2011年からニューヨーク市のコロンビア大学中世日本研究所並びに建築・計画・保存大学院と、研究協力および交流をおこなっています。コロンビア大学は1754年に創立された全米で５番目に古い大学で、様々な分野で高い水準の研究がおこなわれています。昨年に引き続き、今年も奈文研から２名の研究者が現地へ赴き、研究成果を発表し、コロンビア大学の先生方や学生と議論を交わしました。

発表は、９月25日の夕方から、コロンビア大学のエイヴリー・ホールの一室でおこなわれました。まず、平澤毅遺跡整備研究室長が、“Protection of ‘Places of Scenic Beauty’（Meisyoh／名勝）in JAPAN”（「日本における名勝の保護」）という題目で話をしました。続いて、脇谷草一郎保存修復科学研究室研究員が“Study on Heat and Moisture Movement in Openly Exhibited Soil Structural Remains”（「露出展示された土質遺構における熱・水分移動に関する研究」）という題目で発表しました。

それぞれの発表の後におこなわれた質疑応答では、文化財の保護制度や保存技術等について議論が交わされました。プログラム終了後には、ワインとチーズによる歓迎会が開かれ、和やかな雰囲気の中で、引き続き意見交換がおこなわれました。

コロンビア大学との研究協力および交流では、協力体制を強化しながら、今後も2015年度まで毎年２名程度の研究者が奈文研から現地に赴き、日本の文化財研究の様々な成果を発信していくことになっています。　（文化遺産部　青木 達司）



発表の様子